

まじい！倫理が、本気の格闘の終りか、くまの210。このはさくをきく
教へてくまの。易不易の倫理、今日、夜学をいかにして、おこす。

今週の

倫理

7月のテーマ | 易不易の倫理

幸せの心、アホ一息

2022. 7. 23~7. 29

1291号

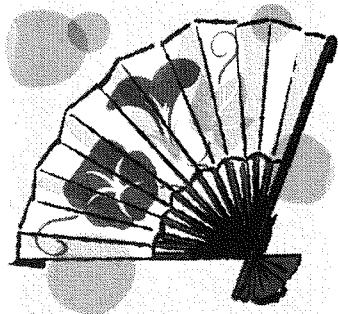
A氏は観光・高速・路線バス事業を展開する会社の経営者です。二年前、新型コロナウイルスが感染拡大した当初、国際線の飛行機は大幅な運休となりました。また、不要不急の外出の自粛が呼びかけられました。そのため、同社で需要のあった国際空港と都心を結ぶ高速バスは大幅な減便となり、観光バス事業も激減してしまいました。

（このままでは乗務員の給料も支払えなくなってしまう）（何とかこの状況を打開したい）と考えたA氏は、運送会社を経営する知人に相談し、乗務員を出向させ、トラックの運転業務をしてもらおうと検討していました。

国が二〇二一年二月から社員出向について助成金を支払う制度を設けたことから、他業種に社員を出向させる動きが活発化し、現在も出向を続けている企業があります。

ある時、運送会社との協議を終え、会社に戻ると、壁に掲げられた経営理念が目に入りました。その際A氏は、（人の移動を支える）（働く人の幸せ）という事業の目的を再認識したといいます。直ちに、乗務員らと面談を行ない、本音で乗務員と話をしました。すると、仕事が減り不安に思っていること、家族は給料が減るのではないかと心配している現状を知ることとなりました。

そこでA氏は、出向の話を白紙に戻し、本来の業務であるバスの運転の仕事がなければ休日とし、さらには仕事がない状況でも社員に前年と同じ額の給料を支払うことを決断したのです。



経営理念に立ち返り 活路を見出していこう

A氏は、ネットを利用し買い物をする人が増加していること、物流倉庫では多くの人が働いていること、そこで働く人を通勤時に最寄駅から倉庫まで企業が用意する専用バスで送迎していることに着目しました。

経営理念をもとに打開策を模索するなかで、A氏の会社へ送迎専用バスの仕事の依頼が増えていきました。つまり本来の目的に沿った業務の依頼に込めることができたのです。また送迎の仕事が増えたことから、厳しい状況が続くものの、物流の拠点が集まる中するエリアで、新たに事業所を一カ所増設することとなったのです。

「易」とは変わること、「不易」とは少しも変わらないことを意味します。川の流れは変わらないうちにあるものですが、流れる水は絶え間なく変わります。易と不易、この相反する二つの姿が統合されバランスが保たれて、万物万象のことごとくが不断の進行を続けていくのです。

これを事業経営に活かすと、「経営」の「経」が不易にあたり、それは時代が変化しても変わらない経営理念や基本方針を指します。それらは方向性を見失ったときに戻るべき原点でもあります。「営」は現状に対して、どのようにしたらうまく行くか方策を考え実行することにあります。

A氏が経営理念に立ち返った時、改めて事業の目的を自覚し、自社が進むべき方向を明確にすることができました。

厳しい状況だからこそ、経営理念に立ち返り、活路を見出していきたいものです。